

高度選別処理センター

ソーティングセンターは、国内トップクラスの処理能力【86,000t/年】を有し、光学選別機【19台】や風力選別機など各種の高度選別機を使った高品質な樹脂素材づくり【最大10種類】を行うなど、更なる資源効率化、高付加価値化に取り組んでいます。

解碎機

磁選機

破袋機

光学選別機

バリオセパレーター

光学選別機

洗浄・脱水機

ペレタイザー



最新の光学センサーを用いて樹脂素材の選別を行う



風力・振動・傾斜を活用し素材を比重別に選別



- ① 硬質単一 PP
- ② 硬質単一 PE
- ③ 軟質単一 PP
- ④ 軟質単一 PE



日本工業規格適合パレット等

- ⑤ 硬質単一 PS
- ⑥ 軟質単一 PS



CDケース等

- ⑦ 有色 PET
- ⑧ 無色 PET



作業ユニフォーム等

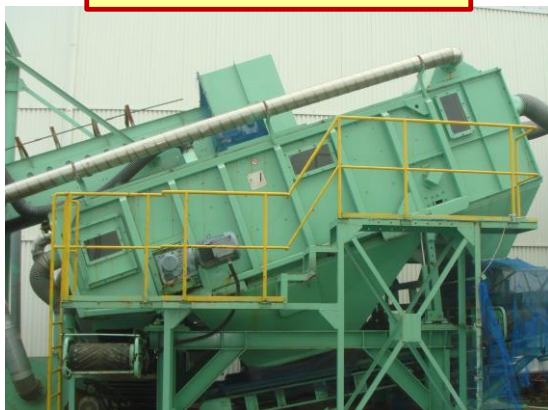
- ⑨ PVC
- ⑩ その他



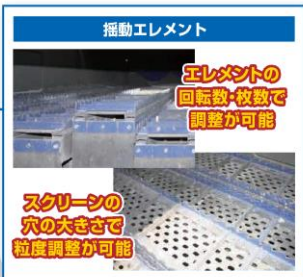
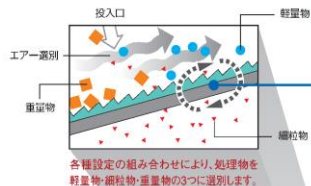
燃料

選別技術のカップリング

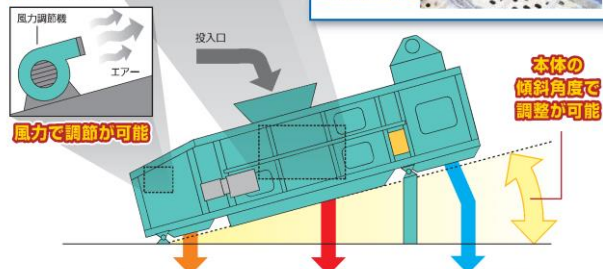
「比重選別技術」



内部での選別イメージ図

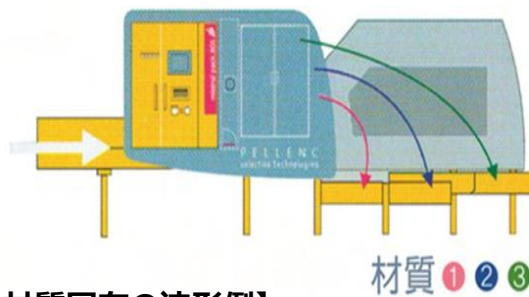


風力装置のイメージ図

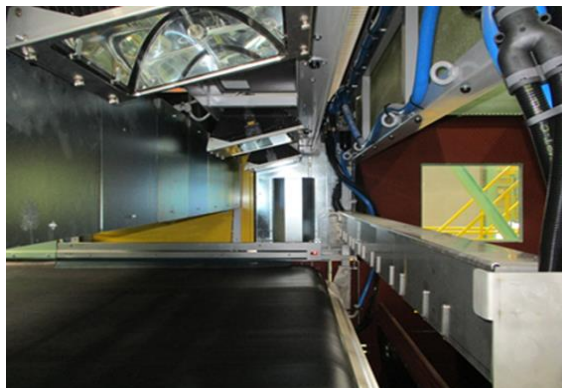
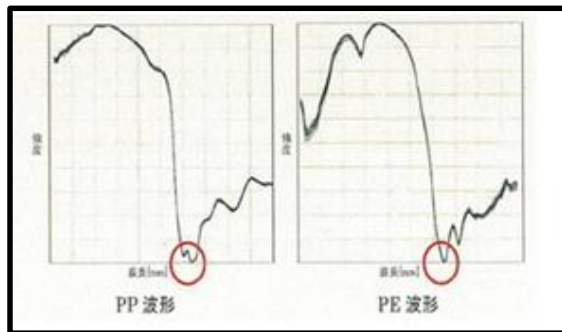


「材質選別技術」

材質選別機ミストラル 3種材質選別機能



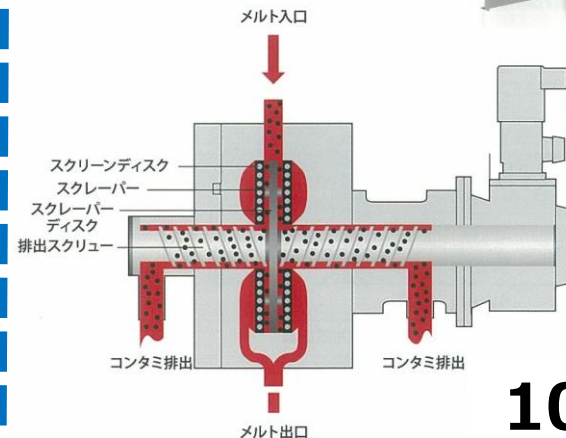
【材質固有の波形例】



「異物選別技術」



【レーザーフィルター】
連続式異物除去装置



調査・研究施設（分析センター）



GC-MS



専門の分析スタッフ



地域資源エネルギーを有効活用した次世代型農業の展開

～平成25年度及び平成26年度 農林水産省次世代施設園芸加速化事業～
地域の廃棄物から産まれるエネルギーを有効活用し、農作物を生産



I C T等を活用した高付加価値農業

情報通信技術。information and communication technologyの略称

「経験と勘」に基づく農業から
科学に基づく農業の実現

新規就農者の
早期育成の実現



高品質な農作物を
効率的、安定的に栽培

ビッグデータの
活用

より高度な制御方法、
栽培最適条件の実用

作物の品質に影響を及ぼす生育
環境、生育状況等、多種多様な
データを数分ごとに収集

当社の技術と従来技術との比較

栄養成分	当社のトマト	水耕栽培	土耕栽培
糖度 (g/100g)	11	4.0	4.0
グルタミン酸ナトリウム (mg/100g)	280	157	172
GABA (mg/100g)	100	28	28
リコピン (mg/100g)	8.8	3.0	4.3
ビタミンA (レチノール相当) (βカロチン) (μg/100g)	92	45	

栽培環境の見える化
(どこでも確認可能に)

作業の効率化
(作業進捗をデータ化し
労務管理)

地域資源エネルギーを有効活用した次世代型農業の展開

園芸2品 販売額倍増

富山 次世代拠点で栽培



次世代拠点のトマト選果場。センサーで糖度をチェックし、基準を満たしたものをだけ出荷している。富山市婦中町吉谷

トマト・切り花高値

2015年に富山市に完成した次世代施設園芸拠点で生産されているフルトマトと花が県内外で高く評価され、販売額を急速に伸ばしている。16年度は3億7000万円と初年度からほぼ倍増。高い品質と通年で出荷できる体制を強みに、トマトは市場平均の3倍以上、トルコキョウは国内最高の価格帯で取引されている。園芸作物の産出額で全国最下位が位置となっている富山県にとって、飛躍への明るい兆しになっている。(政治部・浜田泰輔)

次世代拠点は富山市婦中町吉谷の国道359号沿いに整備された。農業の成長産業化を目指す政府が支援する全国10のモデル地区の一つで、ハウス28棟の計4診で先進的な施設園芸に取り組んでいる。リサイクル・廃棄物処理の富山環境整備(松浦英樹社長)を中心に、県や富山市などでつくる協議会が運営する。廃棄物を処理する際に発生する熱と電気を有効活用し、年間を通じて作物の生育に適した環境をつくり出している点が最大の特長になっている。トマトの栽培には、養液だけを吸収し、余分な水分や雑菌は通さない特殊なフィルムに根をはわせる新しい農法を採用。必要最小限の水しか与えないことで、糖度と栄養価が高まり、病いので農薬の使われる。高い品質価格は1.5倍を大きく上回る57.1tを出荷し、3億2千万円、切り花として日照時間が必要

か花が咲かない。次世代拠点ではLED(発光ダイオード)で冬期に光を補い、年2回の開花を実現。苗を植える時期をずらすことで季節を問わず出荷できる体制を整えた。さらに従業員約20人で無駄な芽を摘み取る作業を徹底し、1本300円以上で取引される大輪の花が咲くようにしている。最先端の設備とマンパワーで高付加価値化に成功し、16年度は約26万本で4800万円を売り上げた。福作が中心の富山県は、園芸産出額で全国最下位が続いている。農林水産省の統計によると、15年度は83億円、46位の福井県の90億円とほぼ徳円の開きがある。

次世代拠点では、度や明るさ、二酸化炭素などのデータを常時その養液を栽培環境生かしている。収量、またまた向上する(富山環境整備業部)といわれ、園芸を引する役割に期待されている。



2017年(平成29年) 5月6日 土曜日

16年度県産野菜首都圏出荷額 最高2億1600万円

県産野菜の2016年度の何部は過去最高の2億1600万円だった。次世代園芸拠点のフルトマトが1億5200万円と全体の11年度に1400万円だった。園芸作物の生産拡大を目指す「1億円産地づくり」事業によって年々拡大。拠点が15年度に稼働し、首都圏を主要なターゲットと定めるとさらに上昇し、5

【TKSのトマト首都圏出荷額(16年度)】
1億5200万円(約130t出荷)
 ※県産野菜首都圏出荷額全体の約7割